

最速で王者へ

K-1 FIGHTER

てらだ たくみ
寺田 匠 (19)

K-1 GYM SAGAMI-ONO KREST 所属



空手で鍛えた蹴りを武器に
最速でK-1王者へ

「最速でK-1チャンピオンになる」。

そう宣言するのは、小林市出身のK-1ファイター寺田匠さん19歳。

幼少のころから父が経営する空手道場で練習を積み、空手だけでなくキックボクシングの腕も磨いてきた。ただ、「強さに自信はあったが目標がなかった。趣味としてやっていただけでした」と話す寺田さん。

一昨年の10月、インターネットの格闘技番組のオーディションに参加したことが転機となった。



▲11月3日に行われたプロ2戦目の様子。相手を圧倒し、1R 2分6秒でKO勝ちを決めた

空手で鍛えた両脚の蹴りを武器にめきめき頭角を現し、日本有数の規模を誇るK-1ジムからスカウトされ、昨年4月にフェザー級（157・5ポンド）でプロデビューを果たした。

「怖いという気持ちはなかったです。ジムでのスパリングや練習の中でも、周囲と比べて劣っていないという自信がありました」。

デビュー戦では相手を圧倒しての判定勝ちだったが、「KOできると思っていたので、勝つだけ悔しかった」と寺田さん。

「プロの世界は甘くないと感じた」と話すのが、昨年11月に行われたプロ第2戦

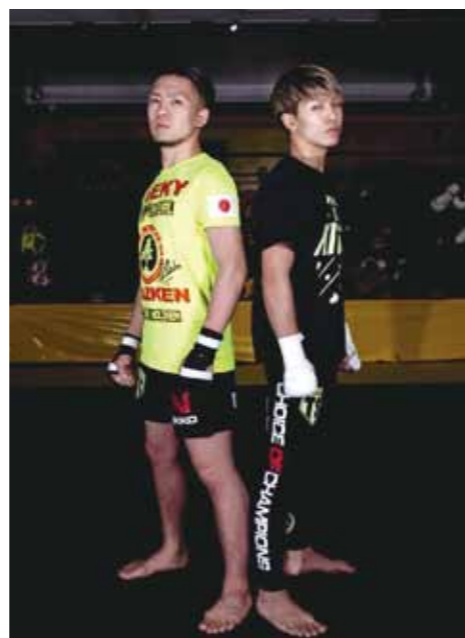
では、1RでKO勝ちを果たし、その実力を示した。

現在トレーニングを積んで第3戦を待つ寺田さん。「自分がどこまで通用するのか楽しみ。もっと強い選手と闘ってみたい」と、次の舞台を見据えている。

兄弟で高みを目指す
若き格闘家の挑戦

「兄がオランダでプロとして活躍している姿を見て、自分もプロになりたいと思いました」。

プロの世界へ挑戦する決め手は、オランダでプロ格闘家として活躍する兄耐さんの存在だった。



▲2歳年上の兄の耐さん（写真左）は、3年前に単身キックボクシングが盛んなオランダへと渡り、現在はプロ格闘家として活躍している

幼い頃から励まし合って厳しい練習を乗り越えてきた兄との絆は、どんな兄弟にも負けないと寺田さん。「兄弟だと名前を憶えてもらいやすいんです。自分は日本で、兄はオランダでお互いが活躍すれば、一緒に有名になっていける。いつか寺田兄弟として有名になりたい」と夢を語る。

「試合中は観客がリング上の選手だけを見てくれる。それが気持ちいい」とK-1の面白さを話す寺田さん。辛いトレーニングの日々が続くが、それでもやめたいと思うことはないと言っている。

「やめることで応援して

くれるたくさんの人を裏切ることになってしまう。だからこの道を行くしかない。やめたいという思考にはなりません」。

昨年11月には「こばやしPR大使」に就任し、今後は試合で勝利を重ねることとふるさとをPRしていきたいと意気込む。

「K-1は自分で努力して鍛えた肉体を使って闘う格闘技。試合で本人の努力の積み重ねが見えてくるところが面白い。そこを市民の皆さんにも見てもらえたら」。

最速でK-1界の頂点へ、若き格闘家の挑戦は始まったばかりだ。